



2022年12月期 第1四半期決算説明会資料

株式会社オプトラ
2022年5月13日



01

2022年度1Q実績

02

トピックス

1. 2022年度1Q実績

1.発表のポイント



2022年1Q実績

- 受注高は、138億円。スマートフォン、医療、AR/VR等が牽引し、2019年4Q以来の高水準。受注残高は、368億円まで増加。
- 売上高は、51億円（前年同期比25%減）。中国国内の新型コロナウイルス感染拡大による移動制限や、半導体不足が影響。
- 利益面では、営業利益率は14.5%（前年同期比9.8%減）、売上減少が影響、販管費は計画内。為替益（+3億円）が貢献し、経常利益は11億円計上。
- スマートフォンやLEDに加えて、車載・AR/VRを含むIoT分野等の多岐にわたる研究開発進展中。国内研究開発施設も取得。
- 上海でのロックダウンの中、現地関係当局より5月第1週から許可を取得し、生産を一部再開。

4

- 受注高は、138億円。スマートフォン、医療、AR/VR等が牽引し、2019年4Q以来の高水準でした。受注残高は、368億円まで増加しました。
- 売上高は、51億円（前年同期比25%減）。中国国内の新型コロナウイルス感染拡大による移動制限や、半導体不足が影響しました。
- 利益面では、営業利益率は14.5%（前年同期比9.8%減）、売上減少が影響しました。販管費は計画内でした。為替益（+3億円）が貢献し、経常利益は11億円計上しました。
- スマートフォンやLEDに加えて、車載・AR/VRを含むIoT分野等の多岐にわたる研究開発が進展しています。また、国内研究開発施設も取得することとした。
- 上海でのロックダウンの中、現地関係当局より5月第1週から許可を取得し、生産を一部再開しました。

2.業績ハイライト（2022年1Q）

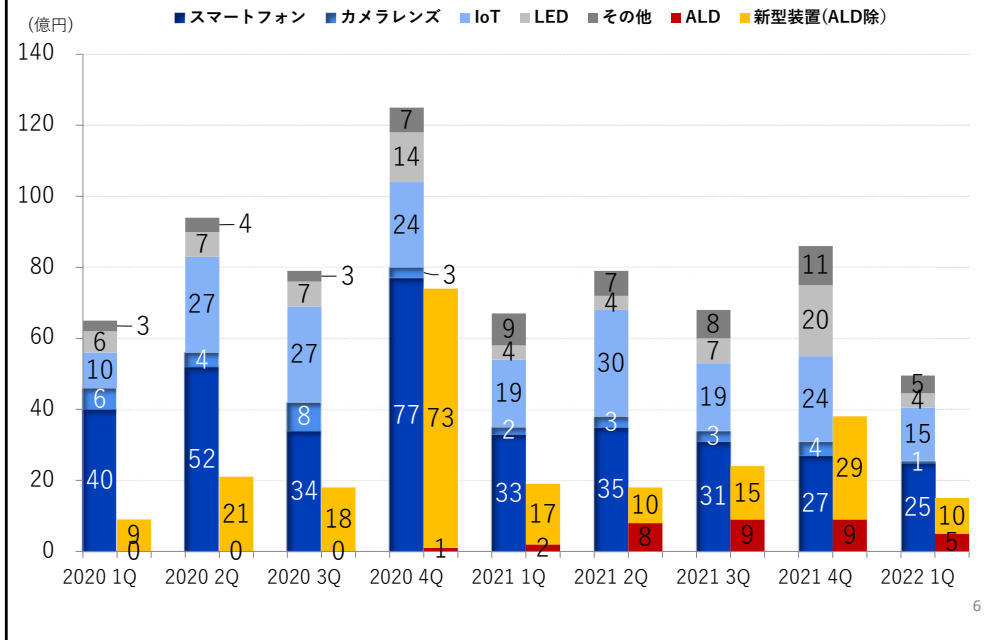


【単位：億円】	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績	前年同期比
売上高	68	51	△25.6%
売上総利益	31 (46.3%)	21 (41.5%)	△33.3% —
営業利益	16 (24.3%)	7 (14.5%)	△55.7% —
経常利益	21 (31.5%)	11 (21.6%)	△49.1% —
当期純利益	14 (21.1%)	6 (11.8%)	△58.6% —
研究開発費	7 (10.5%)	6 (13.6%)	△3.9% —
設備投資額	3	6	93.4%
受注高	91	138	51.1%
受注残高	258	368	42.5%

5

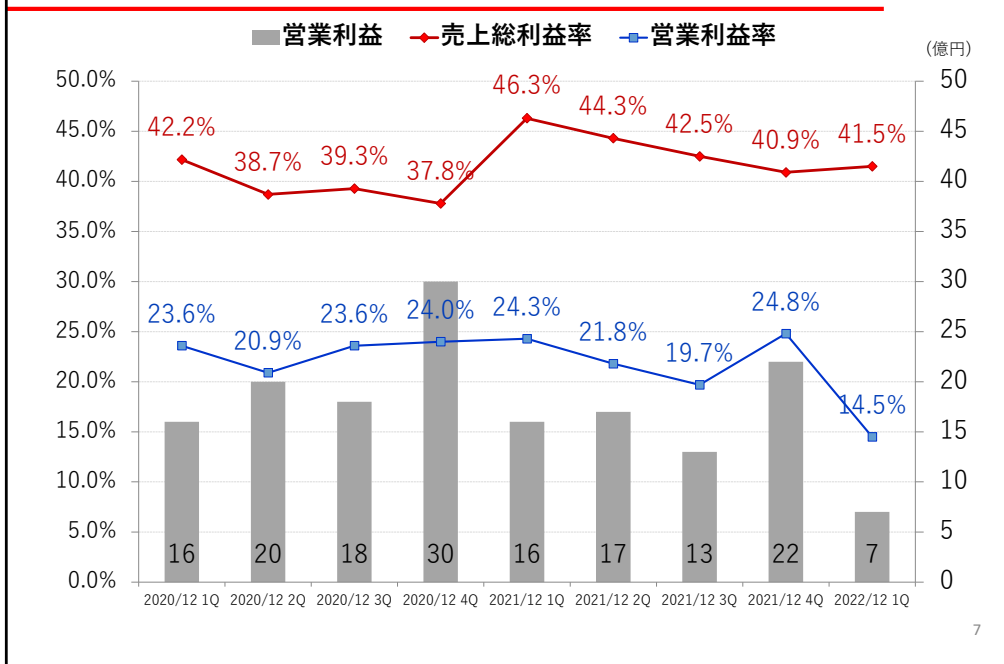
- 2022年12月期第1四半期の売上高は、51億円、前年同期比、25%減でした。
- 売上総利益21億円でした。
- 営業利益は7億円、営業利益率は14.5%でした。
- 当期純利益6億円となりました。為替差益が3億円を計上が貢献しています。
- 研究開発は、6億円、計画内でした。
- 受注高は、138億円でした。2021年4Qの流れが継続しました。それに伴い、受注残高は368億円となりました。

3.売上高内訳推移（四半期毎）



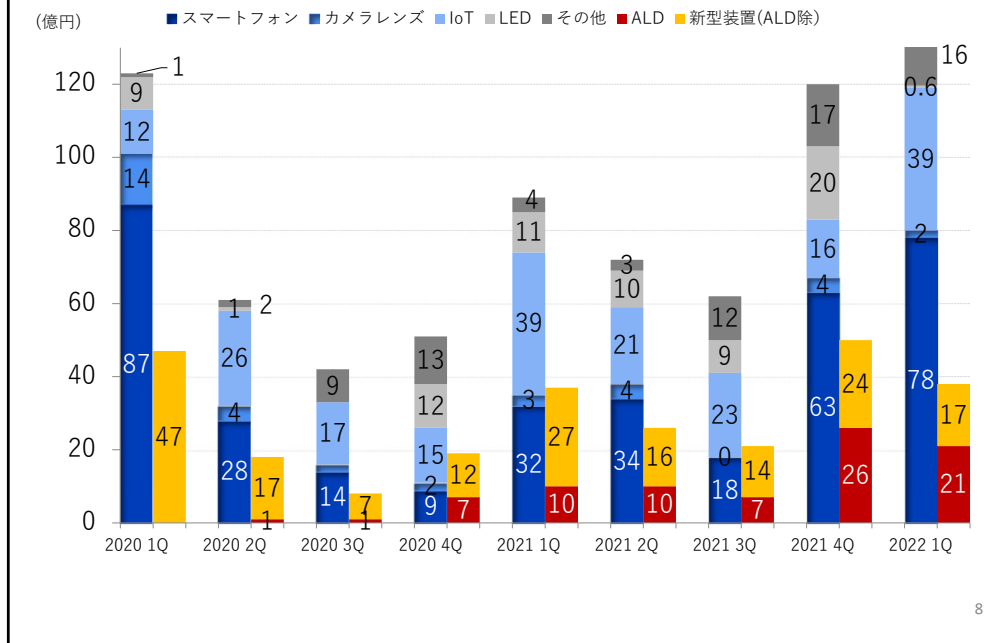
- 第1四半期のスマートフォンの売上は、中国国内の新型コロナウイルス感染拡大による移動制限や、長引く部材不足によるリードタイムの長期化が影響しました。
- 新型装置売上比率は30%でした。
- ALD売上は、スマートフォンメーカーカメラモジュール向け中心です。

4.売上総利益・営業利益（四半期毎）



- 第1四半期の売上総利益率は、前四半期比0.6pポイント増加しました。
- 素材価格が上昇傾向にある中で、設計段階からの見直し等原価上昇の抑制に努めています。
- 販管費は計画内の水準でした。
- 第1四半期の営業利益率は、前四半期比で9%ポイント減の14.5%でした。

5.受注高（四半期毎）







- 第1四半期の受注高は138億円でした。スマートフォンのカメラモジュール向け、IoTが貢献し、2019年4Q以来の高水準でした。
- IoT受注は堅調、主に車載、医療などです。
- 第1四半期のLED向けは一端一服しましたが、引き続き、引合いはあります。
- 新型装置の受注は、スマートフォンカメラモジュール向けにALD装置が貢献しています。

6.受注動向



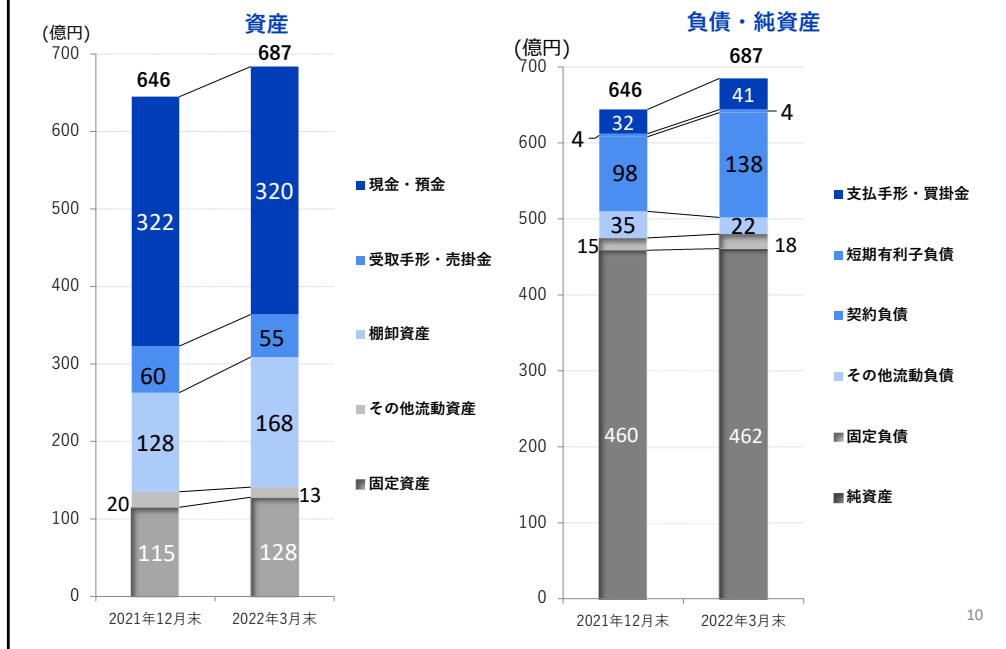
- スマートフォンカメラの高機能化ニーズが強い。
- IoT分野は車載やAR/VRを中心に、成長の柱に育っている。

 スマートフォン	<ul style="list-style-type: none">● 1Qの受注は、大手取引先からの大型受注を含め、カメラモジュールが貢献。● ALD受注の多くがスマートフォンカメラモジュール向け。
 車載	<ul style="list-style-type: none">● 1QのIoT受注の4割を占める。● 車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、センサー等。
 AR/VR	<ul style="list-style-type: none">● 受注増加の流れが継続。● 2022年の受注は、昨年よりも倍増を計画。
 ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">● X線シンチレータの受注有。

9

- スマートフォンカメラの高機能化ニーズが強いです。
- IoT分野は、車載やAR/VRを中心に、今後の成長の柱として定着しつつあります。
- 車載は、1QのIoT受注の4割を占める。車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ、センサー等でした。
- AR/VRは、受注増加の流れが継続しています。
- ヘルスケアでは、X線シンチレータの受注がありました。

7.連結貸借対照表（2022年3月末）



- 世界的な部材不足への対応のため先行発注を進め、原材料（棚卸資産）は増加しました。
- 受注増加により、契約負債（＝前受金）が増加しました。

2. トピックス



8.トピックス



1. 研究開発能力強化（国内研究開発施設取得）

- 埼玉県鶴ヶ島市に、土地・建物を取得することとした。
- スマートフォンに加えて、IoT分野やセンシング技術で半導体光学融合の動きが強まる中、研究開発テーマが多方面に拡大中。
- 高付加価値の装置生産活動も視野。

2. 上海のロックダウンの状況

- 4月1日に始まった上海市のロックダウンにより一時的に停止していた生産活動を5月第1週目に再開。
- 弊社業績への影響を極小化するよう、操業度を上げ対応中。

3. チャイナプラスワン

- 中国一極リスク分散のため、受注地域の多様化を進めている。
- 日本・東南アジアにおける装置生産の可能性等、リスク低減に向けた施策を進める。

12

- 研究開発能力強化のため、埼玉県鶴ヶ島市に、土地・建物を取得することとしました。
- スマートフォンやLEDに加えて、車載・AR/VRを含むIoT分野やセンシング技術で半導体光学融合の動きが強まる中、研究開発テーマが多方面に拡大しています。
- 高付加価値の装置生産活動も視野に入れております。
- 上海のロックダウンの状況は、4月1日に始まった上海市のロックダウンにより一時的に停止していた生産活動を5月第1週目に再開しています。
- 弊社業績への影響を極小化するよう、操業度を上げ対応しています。
- チャイナプラスワンについては、中国一極集中リスクが高まる中、受注地域の多様化を進めています。
- 日本・東南アジアでの装置生産の可能性等、リスク低減に向けた施策も進めています。

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2022年5月12日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp TEL : 03-6635-9487